

100の一步

62 ブルーライン新型車両の試運転

横浜市営交通の取組とそこに込める思いを発信する“100の一步”。今回は、ブルーライン新型車両4000形の試運転についてレポートします。新型車両導入時や検査・修理後の車両は、営業運行の開始前に試験的な運行を行います。行先表示器を「試運転」にして本線を走行し、夜間も含めて車両の動作確認を繰り返します。今年5月に営業運行を開始する新型車両4000形も試運転を実施中です。



試運転での運転は、車両基地内を「構内運転士」が担当し、本線を「教育指導係」が担当します。

構内運転士は、車両基地構内の運転を専門とする運転士です。本線での運転は自動化されていますが、基地構内は手動になるため、より集中力を要する区間です。試運転では、ドアの開閉やマイク音量、客室点灯などの点検をした後、車両基地から最寄り駅までの運転を担当します。これまでの車両との違いを見ながら慎重に確認を行っています。



車両基地から本線に出ると、教育指導係が運転を引き継ぎます。教育指導係は、普段は運転士の教育や実技訓練、試験官をしています。新型車両の試運転では、メーカーや車両担当者からの依頼に応じて操作し、車両性能を確認します。他にも、上り勾配の途中でブレーキを切ったときに後退を検知するかなど、毎回異なる試験を通して安全性の確認を行います。これまでの車両とは各種計器の位置など運転席周りも異なるため、試運転で得た情報を基にマニュアルを作成し、全ての運転士が新型車両に適用するための教育・指導に繋がります。

本線での試運転を終えると、車両は再び構内運転士へと引き継がれ、車両基地へと戻ります。

新型車両4000形の営業運行開始に向け、運転士もいつもと少し違った緊張感を持ちながら準備を進めています。



(左) 構内運転士、(右) 教育指導係